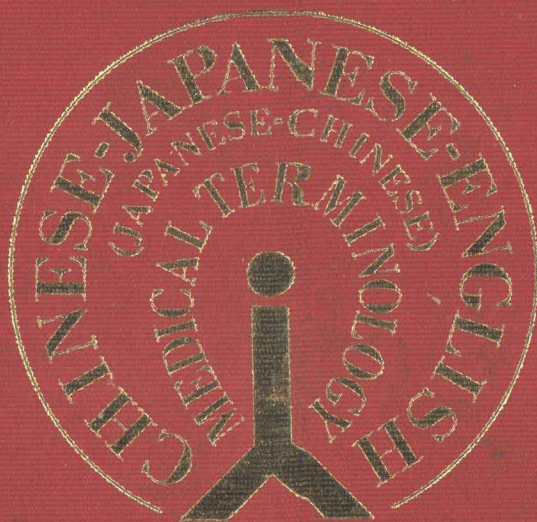




中 日 英
(日中英)
医学用語辞典

CHINESE-JAPANESE-ENGLISH
(JAPANESE-CHINESE-ENGLISH)
MEDICAL TERMINOLOGY

CHINESE-JAPANESE-ENGLISH MEDICAL TERMINOLOGY

中日英医学用語辞典

定価 40,000円

昭和61年2月10日 第1刷発行

監修 懸田克躬

編集 中日英医学用語辞典
刊行委員会

発行者 井出源四郎

発行 中日英医学用語辞典
刊行委員会
〒160
東京都新宿区三栄町9
電話 03 (351) 9169
振替 東京5—85603

発売 株式会社 三冬社
〒160
東京都新宿区三栄町9
電話 03 (357) 0655
振替 東京8—190745

印刷所 凸版印刷株式会社

刊行にあたって

井出 源四郎

1972年の国交正常化以来13年、日中間の医学交流はさまざまな分野で、一般交流からより専門的な学術技術交流へと発展してきた。

一方、政府間においては、日中医学交流のシンボルともいふべき「中日友好病院」が建設され、1984年完成した。中日友好病院は、近代的設備を誇る総合病院で、中西医（中国伝統医学と西洋医学）結合による21世紀の新しい医療の発展をめざすものと期待されている。

こうした日中間の医学交流の発展には必然性がある。一つは、中国が近代化政策の一環として保健医療分野の近代化を重視し、日本からの近代医学および関連諸科学の導入を急務として日本に強い関心を向けていること。もうひとつは、日本が、生体を統一体としてとらえ、病態と治療の関連性を探る中医学に関心をもち、さらに中国が国家的に取り組んでいる中西医结合が、近代医学に新しい展望をもたらしうると期待していることである。

ところで、国際間の交流や研究を進めるには専門用語をいかに正しく翻訳、通訳するかが大変重要である。そのための適切な辞典がなければならない。しかし今まで日本・中国のいずれにも日中間の医学交流に適した総合的な医学用語辞典がなく、その必要性がますます強まっていた。

われわれはこうした辞典の必要性を深く認識して13年の歳月をかけて編纂作業を進め、多くの困難をのりこえて、ここによりやく完成をみた。

辞典を刊行する上で実に多くの方々からご協力を頂いた。中日友好病院強瑞春院長をはじめとする諸先生方から頂いた貴いご支援は感謝にたえない。また、日本万国博覧会記念基金をはじめ多くの団体や賛助会員のみなさまの御支援なくしてこの辞典の完成はなかった。

この辞典が、広く日中両国間の医療関係者に役立つことを念じてやまない。

一九八五年十二月

发 行 词

井 出 源 四 郎

1972年，日中邦交正常化13年以来，日中间的医学交流，通过各种汇道，在各个领域里，都从一般性交流发展为专业性学术技术交流。

另外，在日中两国政府间，1984年，建成了“中日友好医院”，它也可以说是日中医学交流的象征。中日友好医院是一座综合性医院，它以拥有现代化设备而自豪，正因为如此，人们都期待着她通过中西医结合，为21世纪新的医疗事业的发展作出贡献。

在这种日中间医学交流不断发展的过程中，有一种必然性。而形成这种必然性，有两个因素，一是，作为现代化政策的一个环节，中国很重视保健医疗领域的现代化，把从日本引进现代医学和有关各种科学技术作为紧急工作来抓，对日本表示了极大的关心；另一个是，日本把生体作为统一体来处理，对探讨病态和治疗关联性的中医学很关心，而且，期待着中国国家进行的中西医结合能够为现代医学带来新的希望。

在进行国际间交流和研究时，如何准确地翻译专业用语，则是很重要的。这需要有一本适用的辞典。可是，很遗憾，到目前为止，日本和中国都没有一本适合于日中间医学交流的综合性医学用语辞典，其必要性越来越显著了。

我们深刻地认识到了这种辞典的必要性，经过13年的岁月，进行编写工作，其间，可谓是逢山开路，遇水搭桥，跳跃了许多困难障碍，现在才终于完成了。

实际上，在出版这本辞典工作中，曾得到许多人士的协助，其中，我们得到了中日友好医院强瑞春院长为首的各位中国先生的宝贵合作，不胜感谢；同时，没有日本万国博览会纪念基金组织以及许多团体和赞助会员们的支援，同样是不会完成这本辞典的。在此，一并表示感谢！

我衷心祝愿这本辞典能为日中两国间从事医疗工作的人员助一臂之力！

監修にあたって

懸 田 克 躬

熟知のごとく、1972年に日中の国交正常化をみてから、同年の中国の招請による日本医師・針灸師訪中友好代表団の訪中、翌年の中華医学会医学考察団の招請を皮きりに始まった両国の医学医療の交流は、年ごとに密になっている。今日では、日中相互の主催による、あるいは日本での学術講演会やシンポジウム、研修会の開催等々、年ごとにその数を増している。中国からの長期の留学生の数も次第に多くなっている。北京の中日友好病院の設立はいっそうこの傾向を強化することであろうと思う。

私自身も何度も同志諸君とともに学術交流のため中国を訪れているが、残念ながら多くの場合意見交換は通訳を介してなさざるを得ないのが実情であった。その都度痛感させられ、よく語りあったのは、正確で信頼のおける中日医学用語辞典の必要性であった。

いま、ここに『中日英医学用語辞典』が刊行されることの意味は実に大きいと思う。本辞典については、私自身は中途参入者であるが、日本の医学、薬学、中医学の専門家が協力して今日の刊行にいたるまでに、この企画が芽生えてから実に13年の歳月を要したという。その労を深く銘記したい。

編纂の過程で、中日友好病院の強瑞春院長をはじめ10人の医師の方々が協力を惜しまれず、また国内においても、多方面の方々の激励とご援助、ご協力をいただいたことは感謝に耐えないことである。

本辞典が日中両国の医学と医療の発展、またその相互交流に対して大きい役割を果たすことを願ってやまないのである。

一九八五年十二月

监 修 词

懸 田 克 躬

众所周知，1972年实现了日中邦交正常化，当年，应中国的邀请，日本医师，针灸师友好访华代表团访问了中国，第二年，邀请中华医学会医学考察团访问了日本，以此为开端，两国间的医学医疗交流，逐年密切频繁了。从目前来看，由日中相互举办的，或者在日本举办的学术讲演会，讨论会和研究会等，其次数在逐年增加。中国派到日本的留学生人数也渐渐多起来了。北京的中日友好医院的设立，必将进一步推动这一趋势的发展。

为了进行学术交流，我本人也多次和其他先生一起访问了中国，而遗憾的是，许多场合，不得不借助于翻译来交换意见，这是实际情况。当时，令人痛感到，并经常谈论的话题，就是一本正确可靠的中日医学用语辞典的必要性。

我认为，现在出版这本《中日英医学用语辞典》的意义实在重大。我本人是中途参加这本辞典的编写工作的。据说，从这一规划的开始，到今天出版为止，日本的医学，药物学和中医学的专家们齐心协力，花了整整13年的岁月。人们将深刻铭记其功劳。

在编写过程中，中日友好医院的强瑞春院长以及10名医师温尽全力予以合作；同时，在日本国内，也得到了许多方面人士的激励，援助和合作，真是不胜感谢！

切望这本辞典对日中两国的医学和医疗事业的发展及其相互交流，发挥较大的作用！

発刊によせて

強 瑞 春（中日友好病院院長）

中日英医学用語辞典の出版を心からお祝い申し上げます。貴辞典は、新たに編纂された語彙の豊富な医学書で、日本医学界の志厚いエキスパートが、中国医学・西洋医学の知識の宝庫を総ざらいし、十数年にわたって編み上げたものです。これは必ずや世界各国の医学関係者の良き師、良き友となり、また中西医・薬学のさらなる発展をおし進める力となるに違いありません。

辞書全体としては、構成が明確で、入念な配慮が施され、3ヵ国語の語義は極めて簡潔明瞭、意味がわかりやすく、4万5000語に及ぶ巨著は、漢字の^{ピン}拼音順に合理的に配列されて、誰にでもわかりやすく、調べやすいものとなっています。語彙の豊富さは、中西医・薬学上の専門用語に広く精通した成果であり、一つのいしずえたりうるものです。

今日、中西医結合は日進月歩の発展をみ、多くの医学分野で多大な成果をあげております。貴辞典の出版は広範な医療従事者に必携の医学書となり、各国医学界の多岐にわたる交流を促進するでしょう。

中日友好病院は、中日両国政府の合作により建設された、中西医結合、医学教育と研究の結合の近代的総合病院であり、中日両国の医学交流の窓口です。本書が、中日医・薬学の進歩、中日両国ひいては世界各国の医学技術の交流において、余すところなく力を発揮し、貢献することを願ってやみません。

一九八五年四月九日 北京

祝 词

衷心地庆祝中日英医学用语辞典的出版。

中日英医学用语辞典是一本词汇丰富，编著新颖的医学工具书。十几位颇有厚望的医学界专家，历经十多年之艰辛劳动，囊括中西医知识之宝库，汇编成这本中日英三国文字的医学词典。它必将成为全世界各国医学界人士的良师益友，必将受到中西医药界的广泛重视。必将推动中西医药学的进一步发展。

整部字典，层次分明，构思严谨，在三国文字上力求言简意赅，词意沟通。近六万余词汇的巨著，编排合理，用汉字拼音依次排列，更显得条理清楚，做到了通俗易懂，查阅方便。书中词汇丰富多彩，广博中西医药学专业词汇之精华，成其一统。

当今中西医结合日益发展，在许多医学领域中已出硕果。这本字典，将成为广大医务界人士不可缺少的医学工具书，将促进各国医学界的广泛交流。

中日友好医院是中日两国政府合作建设的中西医结合，医技研结合的现代化综合性医院，是中日两国医学交流的窗口，祝愿本书在发展中日医药学，在促进中日两国乃至世界各国的医学技术交流中，作出应有的贡献。

中日友好医院院长 强 瑞 春

一九八五年四月九日 于北京

編纂の経過について

日中国交正常化（1972年）以来13年になる。この間さまざまな分野で日中の交流が深められ、医学医療の交流も年とともに発展している。「文革」初期には専門書の出版も停止されていたが、70年代に入り、新しい成果をふまえた医学専門書や学術雑誌が再び刊行されわが国でも入手、研究できるようになった。

こうした専門書を研究・学習する際に、中国語の医学辞典が必要となるが、今日に至るまで、現代医学の用語を網羅する中日辞典がなかった。われわれも中国の医学・医療を研究するものとして、本格的な医学辞典の出現を早くから待ち望んでいたのであるが、はからずも自らの手で辞書を編さんし刊行することとなったのである。

1972年3月、「赤脚医生培训教材（吉林医科大学編）」というテキストの翻訳がはじまった。これは中国のはだしの医者 of テキストであるが、650頁の大冊で初版34万部刊行というベストセラーであった。翻訳に参加したのは、東京在住の女性中国研究者を中心とするグループで、分担し作業を進め同年末に訳稿がまとまった。この時点で自費出版を前提に訳稿の検討に入り、飛松源治医師を含む専門家の協力を得て点検を開始した。点検作業は内容的、文法的なチェックと医学用語の訳語の統一に重点をおき行だったが、訳語の確定に難航し、結局4年の歳月を費やし、76年末ようやく「はだしの医者教材」全4巻として出版することできた。

当時利用できた辞書は「医学名詞彙編」（商務印書館、1969）であったが、本書は見出し語が英語の英中辞典なので直接利用できず、日本語→英語→中国語の順で確定する方法によらざるをえなかった。われわれは作業の効率化を図るため、主要医学用語についてカードを作成した。このカードは見出し語が中国語で日本語訳をつけ、訳語に対応する欧文を付したもののだが、76年末の出版時には3000項目に達した。

翻訳、出版の作業が完了した時点でとりあえずカードをまとめ、用語集をつくらうということになった。このことが今回の辞典編さんのスタートとなったが、翻訳メンバーの有志が中心となり作業を開始した。

当時われわれが辞典の条件として考えていたことは、

- (1) 中日辞典、すなわち見出し語が中国語であること
- (2) 当時使用されている用語、新しい用語を含んでいること
- (3) 各分野の基本的用語を含んでいること

(4) 現代医学のみならず、中医学（漢方）の基本的用語を含んでいること、の4点であった。

ところで、3000項目で以上の4条件を充たすことは困難であった。折しも中国で新たに刊行された医学専門書の入手が可能となったこともあり、あらためて文献収集を行うこととした。われわれは70年代に刊行された文献のうち400点を購入するとともに、新たにカード作成の作業を開始した。文献から主要な用語を選択し、カードに転記し、さらに、日本語、英語（ラテン語）を付すのであるが、1語1語カード方式により作成した。

ちなみに、中国語「眼口生殖器三联综合征」をカードにとり（原書に欧文が付記されているものもあった）後に日本語の医書、医学英和辞典などにより調査検討の結果、ベーチェット病（Behçet syndrome）の訳語を確定したのである。専門分野を拡張していくにつれ、カードの枚数も次第に増加し、77年11月9000枚、78年6月20000枚、80年3月43000枚、81年9月67000枚に達した。利用した中国書文献も約100冊となった。この時点でカードの整理を行い、重複項目を除くと同時に見出し語の配列を中国語表音ローマ字（拼音）の順序で行うこととした。整理は82年2月に完了した。カードはわら半紙大の台紙に張り付けた（1頁12枚）が、延べ3647頁、45000項目、高さ80センチの初稿ができあがった。

われわれは中医学（漢方）の取り扱いについて検討したが、「中西医結合」の観点から主要用語をリストアップすることとし、78年6月から約2年間「中医名詞術語選釈」（人民衛生出版社 1973）をテキストに定期的に研究会を続け、カードの作成を行った。

原稿整理の過程で次の点が問題となった。すなわち、(1) 入手可能な文献の範囲が限定されているので、十分に網羅できない分野があること、(2) 70年前半の文献にあっては、旧来と表記を異にする名詞が多く、しかも、統一が図られていないこと（文献により同一名詞の表記が異なり一定していない）、(3) 多数の表記のいずれが正式名称でいずれが別称であるか、文献により取り扱いが異なっていること、(4) 日本においても医学用語の統一が必ずしも図られていない場合があること、など、重大な難問を解決する必要があることが判明した。

(1)について。一例をあげると D.M. Weir 著“Immunology for undergraduates”（初版）の中訳書「実用免疫学基础」（科学出版社 1976）を入手、邦訳「免疫学概説」（共立出版 1979）を参照しながら用語の点検を行った。同様の方法により範囲の拡大を図ったが、必ずしも全分野を網羅することはできなかった。しかし、1979年以降中国で「英中」医学用語辞典が刊行され、また外来語を主

とした「日中」辞典も出版され、わが国でも入手可能となった。このうち「英漢医学詞彙」（人民衛生出版社 1979）はA 4判延1675頁の大辞典で、その後の点検作業の進ちょくに多大の影響を与えた。さらに83年1月には中国で初の「中英」辞典である「漢英常用医学詞彙」（人民衛生出版社 1982）を入手する幸運に恵まれ、見出し語の全面的な再点検と必要な用語の補充を行うことができた。

(2)について。文革の時期に外国人名など固有名詞の使用が否定され疾病名などの表記が一変した。ちなみに〔梅尼埃尔氏综合征〕（メニエール症候群）が〔迷路内淋巴水肿〕、〔眩晕综合征〕となった。78年頃には固有名詞の使用は復活したが、表記は文献により一定せず、〔拉萨克氏征〕、〔拉塞格氏征〕、〔腊塞咕氏征〕（ラセーグ徴候）のように使用されていた。当初これらの項目をすべて採用したが、最終的には前述の「英漢医学詞彙」の表記によることとし、〔拉塞格氏征〕を採用、他は項目から削除した。なお〔直抬腿试验〕を別称として採用した。

(3)について。外来語由来の薬名は、一般名、商品名ともに使用されているが、表記法は必ずしも一定していない（化学名のほか、意識、音訳など慣用されている）。こうした状況をふまえ、本辞典では「中華人民共和国薬典（1977）二部」（人民衛生出版社 1979）収録の薬名を正式名称としたが、他に汎用、慣用されている用語も採用した。

また薬用植物などの場合、同一名称で品種を異にするもの、同一品種で呼称が異なるもの、中日間で同一名称であるが、品種の異なるものなど複雑なケースがまま見受けられる。これらについて、見出し語は「中薬大辞典」（上海科学技术出版社 1979）によることとした。

(4)について。日本語訳の確定にあたり、多数の辞典、専門書（別添資料）を参照した。辞典では「医学英和大辞典」（南山堂 1975）、「医学用語辞典」（南山堂 1975）、「医学大辞典」（南山堂 1978）、「疾病傷害および死因統計分類提要（昭54）」（文部省）などのお世話になった（とくに日本医学会医学用語委員会編の「医学用語辞典」を利用させていただいた）。

薬学関係では「日本医薬品集」（薬業時報社 1983）、「薬名検索辞典」（薬業時報社 1982）などの文献を参照した。

こうして82年初めから原稿整理の時期に入ったが（株）三冬社に辞典編さんの事務局を置き、作業を進めていった。

1982年12月、われわれは幸運にも千葉大学学長井出源四郎先生との出会いの機会を得た。井出先生は中日友好病院技術協力国内委員長の要職を兼ねていたが、友好病院技術協力の一環として本辞典の刊行を示唆された。先生の激励により、刊行計画が一挙に具体化し、同時により広範な利用を考えて中国語と日

本語にさらに英語を加えてはと要請され、「中日」辞典から「中日英」対照の辞典とすることになった。こうして83年1月以降、改めて中、日、英の三方向から原稿点検を開始した。しかし3カ国語を対照させることは、たとえば一つ中国語に対し、日本語、英語にそれぞれ複数の表現がある場合が多く、的確な言葉を確定することは実に困難を極めた。

この間1983年中頃から中日英医学用語辞典編集委員会および刊行委員会の準備を進め監修者として元順天堂大学学長懸田克躬先生、刊行委員長として井出源四郎先生にお骨おりをいただくこととなった。そして84年からは懸田先生のご指導のもと、日中医学協会の安達、池谷両医師に見出し語の点検をお願いし十全を期すことができた。さらに当時来日研修中の、中日友好病院医師団の強瑞春先生を始めとする各科にわたる諸先生に見出し語の校閲をお願いすることとなったが、激務のさなか貴重なご意見をいただきその成果を辞典にとり入れることができたのはまことに望外の喜びであり、深く感謝する次第である。こうして基本的な原稿作成は84年11月末に完了し、最終的に中国語見出し語は約45,000語となった。次にいよいよ印刷出版の最終段階を迎えた。

印刷は(株)凸版印刷の中国語電算システムを採用することに決定し、システムの利用により、中日英辞典の部と日中英辞典の部の二部構成が可能となった。制作進行は(株)三冬社に委託した。約3カ月にわたり電算入力のための打合せと原稿整理を行い、85年4月、ようやく入稿にこぎつけた。以後85年5月より初稿、再校、三校、四校と進み、また電算変換して生まれた日中英辞典の部の初稿、再稿、三校を経て、ようやく86年2月完成の運びとなったのである。

完成までに実に多方面にわたる多数の専門家の知恵と協力をいただいた。だれ一人欠けてもこの辞典の完成はあり得なかったと思う。とくに制作をお願いした(株)三冬社の方々のこの辞典にかかる情熱と、長期間にわたる終始変わらぬ誠意と集中力に対して心から敬意を表せずにはいられない。

最後に、われわれは可能なかぎりの力を投入し、正確を期すための最大の努力を尽くしたが、なに分にも時間的制約と、われわれ自身の力不足から、なお多くの問題点を残していることと思う。今後、専門家、利用者の方々から貴重なご指摘を賜り、重版、改訂のさいに補充、訂正させていただければ幸いである。

中日英医学用語辞典刊行委員会編集委員

1985年12月1日

名 和 巖 郎

名 越 礼 子

刊行・編集・制作・協力者一覧

●中日英医学用語辞典刊行委員会

委員長	井出源四郎	中日友好病院技術協力国内委員会 委員長, 千葉大学学長
委員	小川晴通	日本鍼灸師会会長
	懸田克躬	順天堂大学名誉教授 (財)日中医学協会副会長
	黒川利雄	(財)癌研究会付属病院名誉院長 (財)日中医学協会会長
	高木敬次郎	(社)日本薬剤師会会長
	高木健太郎	参議院議員, 全日本鍼灸学会名誉会長
	藤堂明保	元日中学院院長
	羽田春兔	(社)日本医師会会長
	矢数道明	北里研究所東洋医学総合研究所長
	三神美和	前日本女医会会長
編集委員	朝妻恵子	同人鍼療所所長
	安達勇	国立ガンセンター内科医長
	池谷田鶴子	順天堂大学皮膚科医師
	飛松源治	東京都葛飾保健所長
	名越礼子	樺鍼灸院院長
	名和巖郎	東京都ガン検診センター
	細川恵美子	東京都衛生局産婦人科医師
事務長	中古苑生	(株)三冬社

●特別協力	阿部淑子	(財)日中医学協会事務局
	安楽省吾	(株)現代技術研究会社長
	奥野昭三	東京都知事局
	茅誠司	学士院会員, 日中協会会長
	白西紳一郎	(社)日中協会事務局長
	富田裕	(医法)金沢病院院長
		(株)薬業時報社

●国外協力	中国国务院衛生部
	中華医学会
	中日友好病院 強瑞春 (院長), 辛育齡 (顧問)

●受賞	(財)内藤記念科学振興財団刊行助成 (1984年)
	(財)エイボン女性文化センター・エイボングループ

プサポート (1984年)

- 制作 (株)三冬社 野中文江, 中古苑生
 (主 任)遠藤裕子
 (スタッフ)関 祐子, 正木智恵, 加納美知子
 (デザイン協力)片岡 健
 (著者校正)朝妻恵子, 名越礼子, 名和巖郎
 (協 力)王 鵬, 張 大維, 張 清伏
 芝 義子, 東 映子, 名和宏子,
 遠藤きぬ子, 大畑雅子, 今田敬子,
 望月幸代, 橋田 明, 相原尚子,
 村田徳治, 栗田金治, 三宅清子

- 資料協力 全 浩 (北京市環境センター)
 押川雄孝, 植地博子, 亀岡紀子, 梅 幡

●はだしの医者翻訳の会

朝妻恵子, 大石真弓, 太田泰弘, 小野田サヨ子,
 榎本晴康, 高橋由美子, 高林照子, 田原めぐみ,
 田村祥子, 中古苑生, 飛松源治, 名越礼子, 名和
 巖郎, 平野敏夫, 盛 克己, 宮地純樹, 安原 茂,
 吉川正子

●刊行基金債券協力者

薄上亮一, 小野田サヨ子, 加藤千代, 片岡 健,
 北山郁子, 白西紳一郎, 芝 義子, 田村祥子, 高
 沢久子, 高沢 節, 高林照子, 竹村幸子, 長島陽
 子, 平井佳子, はだしの医者翻訳の会, 八太昭道,
 古谷直道, 三嶋泰子, 峰尾雅彦, 吉川正子, 渡辺
 千鶴子

-
- 推薦協力 飯 島 宗 一 名古屋大学学長
 宇都宮徳馬 参議院議員, 日中友好協会会長
 大 島 良 雄 埼玉医科大学付属病院名誉院長
 香 月 秀 雄 放送大学学長
 茅 誠 司 学士院会員, 日中協会会長
 久 保 文 苗 日本医薬情報センター理事長
 柴 田 承 二 明治薬科大学教授
 塚 田 裕 三 慶応大学医学部教授
 鳥 居 有 人 国立立川病院院長
 吉 利 和 浜松医科大学学長

文献リスト

左列の中国語文献より語彙を選択抽出、右列の日本で出版された日本語及び英語文献(一部中国語訳の原典を含む)を参照して、日本語、英語の訳語を確定した。

中国語文献		日本語文献	
人体局部解剖学	福建人民出版社	解剖学名集覧	南山堂
实用外科手术解剖学	人民卫生	解剖アトラス	文光堂
人体解剖图谱	上海人民		
人体译名辞典	香港书店		
中国人体解剖学名词	上海科学技术		
赤脚医生培训教材・北方版	人民卫生	内科学(上・中・下)	南山堂
内科疾病鉴别诊断学	人民卫生	内科学用語集	日本内科学会
外科学	人民卫生	内科診断学	医学書院
儿科手册	上海人民	臨床外科鑑別診断	医学書院
临床产科学	香港商务印书馆	産科学	医学出版
妇产科临床手册	湖北人民	助産婦必携	医学出版
妇产科急症	上海人民	最近婦人科学	文光堂
临床实用病理产科	天津人民		
皮肤科临床手册	上海人民	新皮膚科学	南山堂
常用皮肤病简编	安徽人民	臨床泌尿器科学	南江堂
实用理学学	人民卫生	物理療法の実際	南山堂
物理诊断学	人民卫生		
实用神经内科	吉林人民		
实用神经外科	吉林人民	臨床精神医学	中外医学社
神经系统疾病定伍诊断	人民卫生	精神神経必携	鳳鳴堂
		精神科ポケット辞典	弘文堂
神经系统疾病鉴别诊断			
精神病学(上海科技)	内蒙古人民		
耳鼻科临床手册	上海人民	新耳鼻咽喉科学	南山堂
疾病学基础	人民卫生		
实用免疫学基础	科学	免疫学概論	共立出版
实用免疫学辞典	广西人民		
公害引起疾病	香港商务印书馆	公害による疾患	広川書店
核医学	人民卫生		

中国語文献		日本語文献
遗传工程及其应用前景	贵州人民	
疾病分类及手术分类名称	人民卫生	疾病傷害および死因統計分類提案(Ⅱ, Ⅲ)
国外人民病征辞汇	科学技术文献	症候群辞典 厚生省
汉英医学常用词汇	贵州人民	
汉英常用医学词汇	人民卫生	医学用語辞典 南山堂
汉英医学辞典	上海科学技术	
汉英法医学词汇	知识出版	医学大辞典(1978) 南山堂
英汉常用医学词汇	人民卫生	医学英和大辞典 南山堂
英汉医学词汇	香港®商务印	図解英日医語大辞典 メジカルビュー社
英汉医学词汇	人民卫生	
新英汉医学大辞典	香港·中外出版社	医学略語小辞典 金芳堂
医用日语外来语辞典	吉林人民	ステッドマン医学大辞典
医用日语外来语辞典·增订本	吉林人民	メジカルビュー社
日英汉医学外来语辞典	延边	ドーランド医学辞典 広川書店
医用日语外来语词汇	人民卫生	新和英独医語小辞典 医学書院
遗传学词典	科 学	生物学辞典 岩波書店
英汉医学及生物学词汇略语词典	科 学	生物学用語辞典 三共出版
英汉免疫学辞典(广西人民)	广西人民	学術用語集·遺伝学編 文部省
英日汉常用核医学词汇	吉林人民	マグローヒル科学用語辞典
常用医学外语略语手册	湖南人民	
手术室护理工作手册	上海人民	手術室看護基準 医学出版
内科手册·检验部分	上海人民	臨床診断指針 医学書院
临床检验手册	人民卫生	臨床検査指針 金原出版
实用临床检验	广东人民	臨床検査辞典 医歯薬出版
实用生化细菌检验	广东人民	生理生化学用語辞典 化学同人
农村医学检验	安徽人民	生化学辞典 岩波書店
实用病理学·上下	人民卫生	病理学(上·下) 医学書院
病理学基本知识	人民教育	人体病理学 大修館
彩色病理组织学图谱	内蒙古人民	中日英化学用語辞典 東方書店
新编药物学第10版	人民卫生	臨床医のための副作用入門 薬事日報
实用药物手册	上海人民	日本薬局方 広川書店
中华人民共和国药典Ⅱ(1979)	人民卫生	日本医薬品集 薬業時報
中华人民共和国药典(1963)	人民卫生	